

2026年3月期 第1四半期

1Q FY2025

決算概要



Enhancing planetary health

2025年8月7日

日揮ホールディングス株式会社

本資料の複製・転載・改変・再配布を禁止します。

執行役員ファイナンスユニット部長の田口です。
2026年3月期第1四半期の決算概要のご説明をいたします。

目次

- 2026年3月期 第1四半期 実績
- 2026年3月期 予想
- 参考資料



最初に2026年3月期第1四半期の実績、次に2026年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

2026年3月期 第1四半期実績



Enhancing planetary health

最初に2026年3月期第1四半期の実績です。

ハイライト

- 複数の海外大型案件が年度内完成に向けて着実に進行中
カナダLNGプロジェクトでは第1系列からのLNG初出荷を達成
- 業績は通期予想に沿って進捗
- 受注はFEED等先行業務が活発

2026年3月期第1四半期のハイライトとして、3点をまとめております。

ここ数年の売上の中心となってきた複数の海外プロジェクトが、今年度中の完成・引き渡しに向けて着実に進行中です。
中でもカナダのLNGプロジェクトではこの第1四半期に第1系列が運転開始準備完了を達成し、顧客は計画通りLNGの初出荷を行いました。現在は第2系列の完成に向けて作業を進めています。
業績は、通期予想に向かって順調な進捗となりました。
受注は、EPC契約で大きなものはまだありませんが、EPC契約に先行する基本設計や計画検討業務などを受注・遂行しています。

連結損益計算書

【億円】

	1Q FY2024	1Q FY2025	前年同期比	
売上高	2,041	1,898	△ 143	△ 7%
売上総利益	155	154	△ 1	△ 1%
利益率	7.6%	8.1%	+0.5pt	
営業利益	81	78	△ 2	△ 3%
経常利益	176	92	△ 84	△ 48%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	123	56	△ 67	△ 55%
1株当たり 四半期純利益	51.28円	23.17円		

連結業績です。

前年同期比では、外国為替の影響もあり、減収減益となりました。

第1四半期末のドル円の為替レートは前年同期の161円7銭に比べ、今年は144円81銭と大幅な円高でした。

売上高は1,898億円

売上総利益154億円

利益率は8.1%でした。

営業利益は78億円と前年同期比2億円減ですが、経常利益は84億円減の92億円でした。

経常利益の減額幅が大きくなったのは、主に円高による営業外の為替差損益の影響です。

親会社株主に帰属する四半期純利益は56億円です。

セグメント情報

【億円】

	1Q FY2024	1Q FY2025	前年同期比		
総合エンジニアリング	売上高	1,882	1,741	△ 140	△ 7%
	セグメント利益	75	74	△ 1	△ 2%
	利益率	4.0%	4.3%	+0.3pt	
機能材製造	売上高	149	145	△ 4	△ 3%
	セグメント利益	24	18	△ 5	△ 23%
	利益率	16.0%	12.6%	△ 3.4pt	
その他	売上高	9	11	+1	+17%
	セグメント利益	3	2	△ 0	△ 23%
	利益率	32.8%	21.4%	△ 11.4pt	
調整額	セグメント利益	△ 21	△ 16	+5	-

セグメント別の業績です。

総合エンジニアリング事業は、前年同期比では主に円高影響により減収減益となりました。売上高1,741億円、セグメント利益は微減の74億円です。

利益率は4.3%に上振れていますが、為替影響や費用発生のタイミングによるもので通期では期初予想の3%台に収束する見通しです。

機能材製造事業は、石油精製触媒の販売減などにより前年同期比減収の売上高145億円、

セグメント利益は18億円でした。

償却費負担の増加などがあり、利益率も低下していますが、期初想定に沿ったものとなっています。

その他、調整額は記載の通りです。

セグメント情報

マーケット環境

・総合エンジニアリング事業

- ・ 天然ガス（LNG含む）関連を中心に顧客の設備投資計画は多数進行中。
- ・ 一方で、サステナブル分野はスローダウン。
- ・ 顧客の投資決定に向けた検討期間は長期化。

・機能材製造事業

- ・ 海外では石油精製触媒の需要が堅調。
- ・ ファインケミカル分野は、ハードディスクや液晶ディスプレイ関連の研磨剤、機能性塗料の需要回復傾向が続く。
- ・ ファインセラミックス分野は、生成AI関連市場の拡大を背景とした半導体製造装置用部材やEV関連市場における高熱伝導窒化ケイ素基板の需要が堅調。

セグメント別のマーケット環境です。

総合エンジニアリング事業では、LNGなど大規模プロジェクトの計画は多数進行中です。

ただし、コスト上昇の影響などもあり、顧客の投資決定までの検討期間は長期化しています。

機能材製造事業では、海外での石油精製触媒の需要は堅調に推移しています。また、ファインケミカル分野、ファインセラミックス分野では濃淡があるものの電子材料、半導体製造装置関連、EV関連などの製品で底堅い動きとなっています。

セグメント情報

受注の状況（総合エンジニアリング事業）

i) 受注高

【億円】

	1Q FY2024	1Q FY2025
海外	2,650	179
国内	231	294
合計	2,882	474

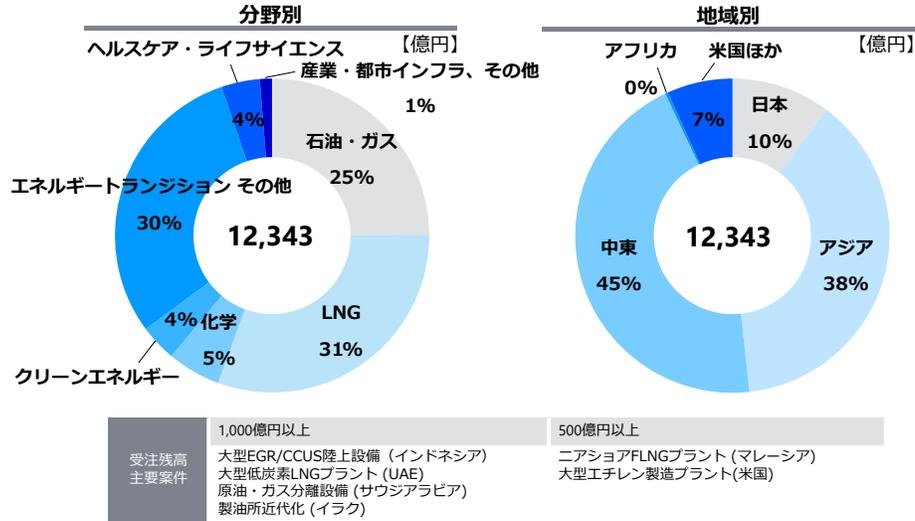
1Q FY2025
主要受注案件

ロケット試験・燃料設備（日本）

総合エンジニアリング事業の受注の状況です。
海外179億円、国内294億円、合計474億円でした。
国内では、民間ロケット試験・燃料設備等の新設プロジェクトや、EPC契約前の基本設計業務などを受注しています。

セグメント情報

ii) 受注残高 (2025年6月末)



受注残高です。

6月末の受注残高は1兆2,343億円となりました。

分野別ではLNGやエネルギー・トランジションその他、地域別では中東とアジアが大きくなっています。

連結財政状態

【億円】

	2025年3月末	2025年6月末	増減
流動資産	5,612	5,231	△ 381
固定資産	2,229	2,155	△ 73
総資産	7,841	7,386	△ 455
流動負債	3,469	3,169	△ 299
固定負債	449	404	△ 45
純資産	3,922	3,812	△ 109
自己資本比率	49.8%	51.4%	+1.6pt
JVキャッシュ 当社持分	935	809	△ 126

連結財政状態です。

プロジェクトの進捗に伴う支払が進んだことなどで現預金が減少し、総資産は期初から455億円減少して7,386億円となりました。

純資産も配当金支払などで109億円減少し3,812億円となりました。

自己資本比率は51.4%でした。



次に、2026年3月期の通期業績予想についてご説明いたします。

2026年3月期の業績見通し

通期業績予想に変更はありません。

【億円】

	FY2025 予想	1Q FY2025 実績	進捗率
受注高(※)	6,500	474	7%
売上高	6,900	1,898	28%
売上総利益	520	154	30%
利益率	7.5%	8.1%	
営業利益	210	78	37%
経常利益	220	92	42%
親会社株主に帰属する当期純利益	150	56	37%
1株当たり配当金	40.00円		
換算レート(米ドル)	140.00円		

(※) 総合エンジニアリング事業

通期業績予想は変更ありません。

第1四半期実績の予想に対する進捗を見ると、受注高は大型案件の決定時期が年度後半になると見ており、まだ7%の進捗にとどまっています。

売上高、売上総利益は若干前倒し気味に進んでおり、利益率も予想を上回っています。

想定為替レート、ドル円140円に対して第1四半期末は144円81銭と円安だったことにより、売上高で110億円、売上総利益で8億円の上振れ影響がありました。経常利益以下の上振れも、同様の理由から営業外為替差損が少なくなったことによるものです。

第1四半期実績は通期予想に向かって順調な結果であったと評価しています。

決算概要の説明は以上です。

将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

＜本資料に関するお問い合わせ先＞
日揮ホールディングス株式会社
戦略企画オフィス 経営企画ユニット
コーポレートコミュニケーショングループ
Tel : 045-682-8026 Fax : 045-682-1112
E-mail: ir@jgc.com